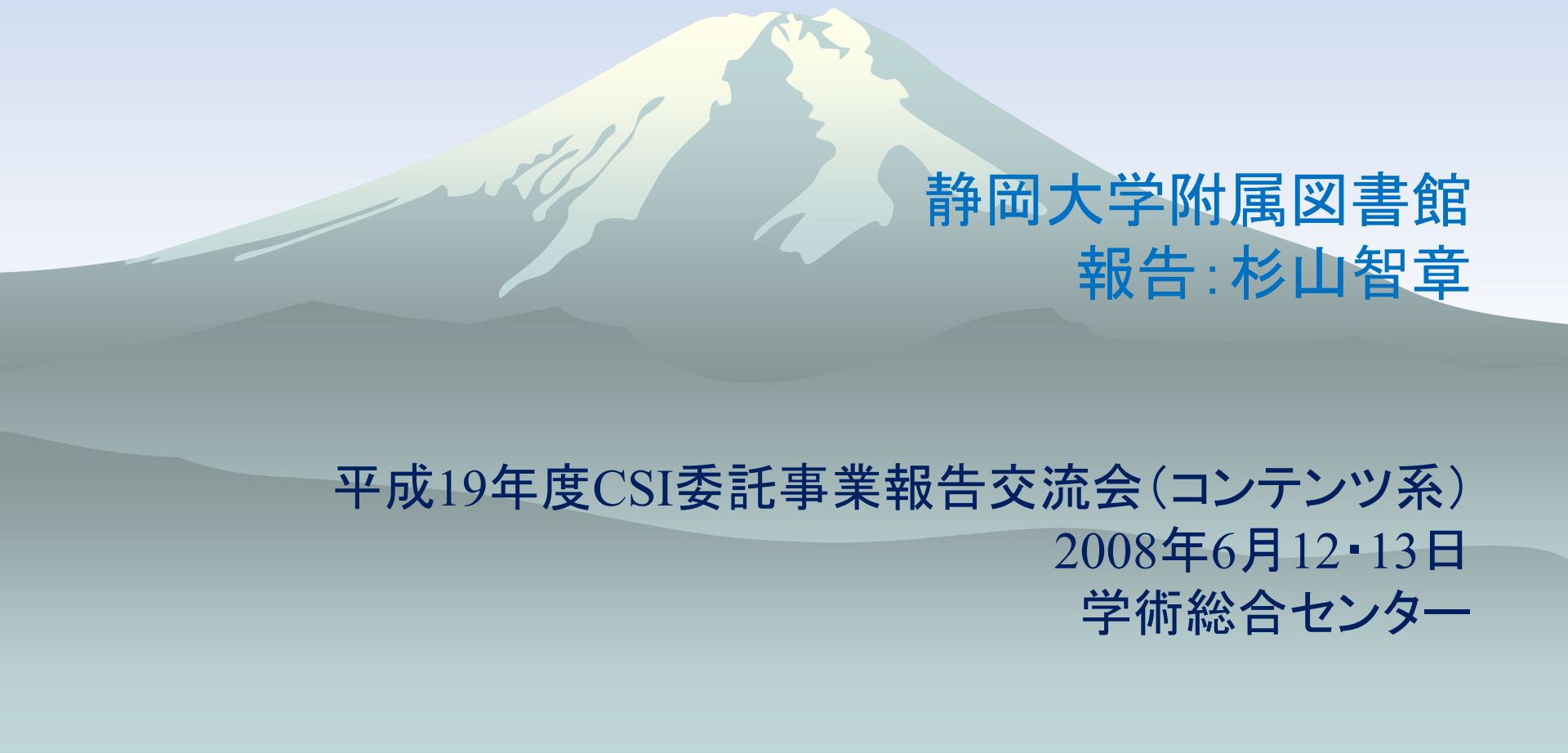


IRからGeNiiへのリンクで広がる 学術情報ナビゲーション



静岡大学附属図書館
報告：杉山智章

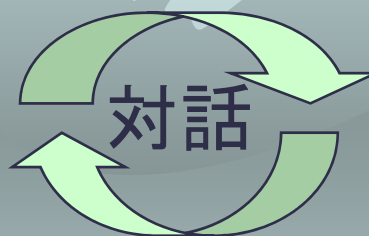
平成19年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系)
2008年6月12・13日
学術総合センター

SUREの信念

静岡大学学術リポジトリ
(Shizuoka University REpository)

リポジトリは生きものである

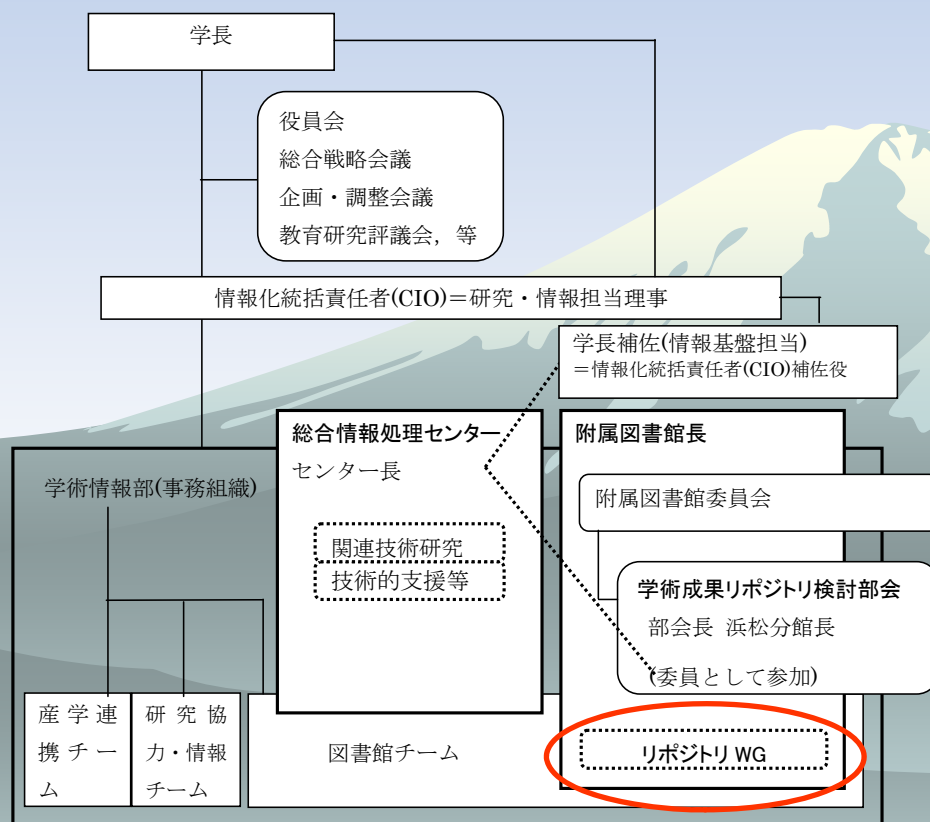
提供者(研究者)



運用者(図書館)

主役は、提供者である研究者

問題解決のための体制



館内リポジトリWG

図書館長と担当職員で

ブレインストーミングを

毎週実施



具体的な問題解決の

推進力

+

担当者のモチベーションの

維持向上

IRの「顔」としてのトップページに

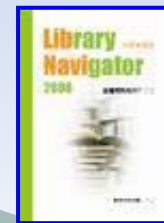
初めてリポジトリのトップページを訪れたとき
ここで何が出来るのか分からない

- 理事/副学長からのメッセージ
 - ⇒ 全学的な取り組みを強調
- 詳細検索フィールドの設置
 - ⇒ 多様な検索要求に応える
- タイトル画像の工夫
 - ⇒ WorldWideを意識、日本との時差を演出

本文ナビ、インターフェイス改良

DSpaceのデフォルトでは、どこを開けば本文が見られるか、リンクが目立たない

- ファイルへのリンクを上部に移動、**サムネイル**を表示 = 提供者に好評
- 「『コミュニティとコレクション』で紀要の巻号が多すぎる」、「検索結果一覧で項目が多すぎる」、「検索エンジンなどから直接PDFを開くとどこの資料か分からない」 etc.
 - ⇒ **数時間～数日**で対応



GeNiiへのナビゲーション

リンクは DOI だけではなく
メタデータから多様なリンク

- NCID・・・WebcatPlusで書誌・所蔵確認

⇒「あれば必須」入力項目を活用



- NAID・・・CiNiiのナビゲーションへ

⇒メタデータ登録作業との合理性



- タイトル・・・JuNii+のRS検索



EJを含む学内資料との連携

図書館の基幹システムである
OPACに直結

- ISSN/ISBN・・・OPACのBaseURLを利用
 - ◇ 所蔵資料に加え、契約EJと主なOpen Access Journal (DOAJ,NII-ELS,NII-REO,J-STAGE)も検索
- 著者名・・・シラバス参考書情報と相互リンク
 - ◇ さらにシラバス参考書とOPACも相互リンク

科研費報告書、博士学位論文の場合

雑誌・図書以外の資料タイプの
ナビゲーション

科研費報告書

●PJNO・・・KAKEN, KAKENβ版

⇒β版からさらなるナビゲーション



博士学位論文(現在は要旨のみ)

●ローカル書誌IDでOPACへ



著者名典拠の問題

この著者について、もっと知りたいときは？

● 著者名表記から研究者リンクリゾルバーα版



※リポジトリ内で、同姓同名の研究者がいる可能性もあり
典拠コントロールが必要ではないか？

⇨ 信州大学 無償提供

「研究者総覧・機関リポジトリ連携プログラム」

DSpace側を利用しカスタマイズ



さらなる情報発信をサポート

「自分の論文にコメント付与したい」
「自分のHPにリンクしたい」



⇒ 図書館システムを使って提供を開始

出版社・学会のブラウズとリンク

著作権ポリシーは出版社や学会ごとに違う

- 出版社・学会で一覧可能に
 - ◇ 著作権ポリシーを確認できるよう

SHERPA/RoMEO, SCPJ を検索するリンク

※リポジトリ業務フローへの応用を検討中

主題検索 目録スキルの継承

同じ主題の論文を一覧したい

- メタデータのNDCを必須入力とし、DSpaceのcontrolled vocabulary機能に日本十進分類法8版（＝静岡大の図書目録で使用されている分類表）を適用

リポジトリに、図書館が培ってきた目録スキルを継承

図書館HPからIRにナビゲート

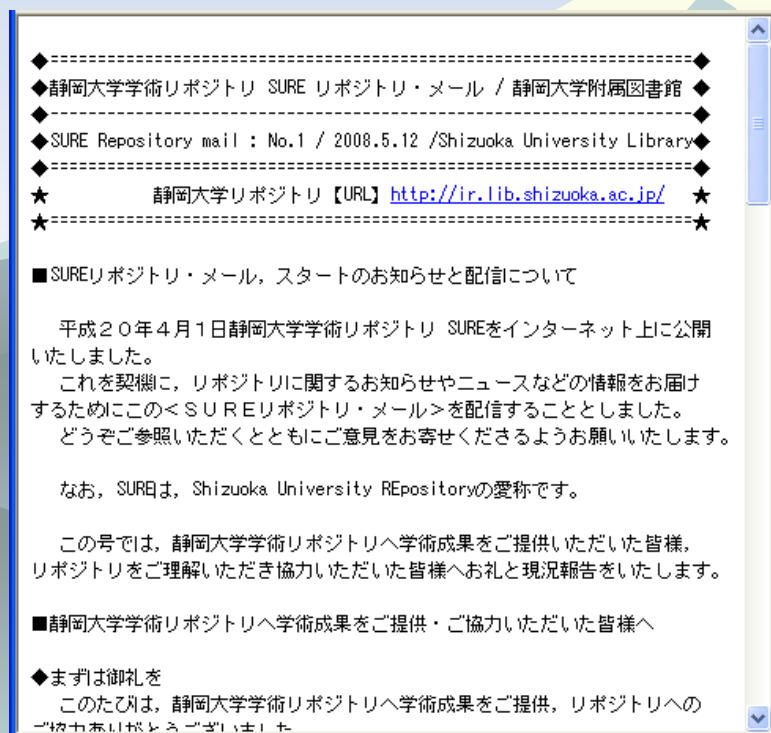
図書館サービスとの一体化を目指して

- 図書館HPにもリポジトリのタイトル画像
 - ⇒ 図書館が運用していることを象徴的に
- リポジトリ簡易検索機能を設置
- **RSS**を取り込み最新登録コンテンツを紹介
 - ⇒ 図書館HPからIRにナビゲート

より活きたリポジトリにするために

● 研究者とのコネクション強化

⇒「SUREリポジトメール」の発信！！



ご清聴ありがとうございました.

